



# 2026年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2026年2月13日

上場会社名 株式会社ディスラプターズ

上場取引所 東

コード番号 6538 URL <https://disruptors.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長グループCEO (氏名) 板倉広高

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 曾根康司

TEL 03-6555-5054

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績(2025年4月1日～2025年12月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	3,789	21.4	522	148.3	520	148.2	482	415.3
2025年3月期第3四半期	3,122	18.6	210	396.9	209	457.0	93	

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 482百万円 (415.3%) 2025年3月期第3四半期 93百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	23.58	
2025年3月期第3四半期	4.58	4.58

(注) 2026年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	3,977	2,491	62.6
2025年3月期	3,788	2,198	58.0

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 2,491百万円 2025年3月期 2,198百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期		0.00		5.00	5.00
2026年3月期(予想)		2.00		5.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2026年3月期第2四半期末配当金の内訳 記念配当 2円00銭 創立20周年記念配当

## 3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,101	18.8	725	105.8	720	104.9	564	166.7	27.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P.8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年3月期3Q	20,996,400 株	2025年3月期	20,996,400 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2026年3月期3Q	525,959 株	2025年3月期	525,959 株
------------	-----------	----------	-----------

期中平均株式数(四半期累計)

2026年3月期3Q	20,470,441 株	2025年3月期3Q	20,464,877 株
------------	--------------	------------	--------------

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記) .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	9
(収益認識関係) .....	10

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、内閣総理大臣の交代をはじめとする政治状況の変化に伴う政策動向の不透明感や、為替相場の変動、海外景気の下振れリスクなど、依然として予断を許さない状況で推移いたしました。

また、当社グループが事業展開するHR（人材）ビジネス市場におきましては、生産年齢人口の減少に伴う構造的な人手不足が続く一方、企業の生産性向上を目的としたDX（デジタルトランスフォーメーション）需要が拡大を続けております。

このような環境下、当社グループはマーケティング事業及びDX事業による事業拡大を推進してまいりました。あわせて、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つと位置づけ、創業20周年を記念し、当社グループとして初となる中間配当（記念配当）の支払いを実施いたしました。

マーケティング事業においては、集客環境の変化に対応すべく、従来型のウェブサイト経由によるユーザー獲得に加え、アプリや動画、SNSによる集客を強化してまいりました。そして「アライアンス・マーケティング」の取り組みにより、HR領域では対前年同期比で業績を伸長させることが出来ました。一方、不動産領域においては、個人向けサービスによる安定した収益確保に加え、オフィス回帰の流れを受け、事業環境に追い風が吹いている法人向けサービスの業績向上に取り組んでおります。

DX事業においては、各サービスの売上高拡大を目指し、注力分野と費用構造の見直しを継続してまいりました。また、当社グループ間でのデータベースの活用やクロスセルがスムーズに進むよう、体制を整えてまいりました。その結果、法務DXの「ContractS CLM」の黒字化が継続したことに加え、DX商材の営業支援を行うSales Xの営業状況も良化しております。

なお、当社グループはグループ会社間でのシナジー創出、生産性向上を目指し、前会計年度に持株会社化と拠点の集約を行っております。その結果、グループ会社間のみならず、事業レベル、担当レベルでの連携強化が進み、アライアンス・マーケティング等の成果となって表れております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,789百万円（前年同期比21.4%増）となりました。また、営業利益は522百万円（前年同期比148.3%増）、経常利益は520百万円（前年同期比148.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は482百万円（前年同期比415.3%増）となりました。なお、親会社株主に帰属する四半期純利益におきましては、各事業が順調な推移をしたことに加え、解決金を利益計上したことが大きく寄与いたしました。

セグメント別の経営成績は以下の通りとなります。

#### (マーケティング事業)

HR領域では、成長戦略の中核である「アライアンス・マーケティング」が事業を通期に渡って牽引したことにより、売上高は対前年同期比で大きく伸長することが出来ました。「アライアンス・マーケティング」とは、当社グループの自社集客に加え、協力会社と連携し、集客力の底上げと求職者の行動を促すアプローチになります。

不動産領域の個人向け賃貸情報提供サービスにおいては、引き続き安定した収益確保を図る一方、サーバー関連費用などの販管費の見直しを行ってまいりました。また、法人向け賃貸情報提供サービスにおいては、オフィス回帰の流れを受け、クライアントとの情報連携によるリードの一括獲得や大型案件の受注など進め、売上確保につとめてまいりました。

以上の結果、売上高は2,907百万円（前年同期比31.1%増）、セグメント利益は513百万円（前年同期比67.5%増）となりました。

なお、サービス別の売上高の内訳は以下の通りとなります。

転職	1,583百万円
アルバイト・派遣	605百万円
不動産	718百万円

その他 0百万円

(DX事業)

DX事業では、引き続き、法務DXを提供する「ContractS CLM」が事業を牽引したに加え、収益構造の見直しを継続して行った結果、当第3四半期連結累計期間において黒字化が継続しております。

以上の結果、売上高は881百万円（前年同期比2.5%減）、セグメント利益は8百万円（前年同期はセグメント損失88百万円）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における総資産残高は3,977百万円となり、前連結会計年度末に比べ189百万円増加しました。これは主に、現金及び預金の増加254百万円、ソフトウェアの増加40百万円、売掛金の増加34百万円、ソフトウェア仮勘定の増加28百万円、顧客関連資産の減少138百万円、のれんの減少63百万円によるものであります。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末における負債の残高は1,486百万円となり、前連結会計年度末に比べ102百万円減少しました。これは主に、長期借入金（1年内返済予定を含む）の減少179百万円、買掛金の増加25百万円、契約負債の増加34百万円、未払金の増加23百万円によるものであります。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は2,491百万円となり、前連結会計年度末に比べ292百万円増加しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上や配当金の支払いの差引の結果、利益剰余金の増加339百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想は現在入手可能な情報に基づいておりますが、今後の不確定要素により、実際の業績と異なる場合があります。なお、現時点での業績予想につきましては、2025年11月25日に公表いたしました通期の業績予想に変更はございません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,067	1,322
売掛金	517	551
その他	62	97
貸倒引当金	△5	△3
流動資産合計	1,642	1,967
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	23	21
その他(純額)	10	11
有形固定資産合計	34	33
無形固定資産		
ソフトウェア	20	61
のれん	377	313
顧客関連資産	1,578	1,439
ソフトウェア仮勘定	—	28
無形固定資産合計	1,975	1,842
投資その他の資産		
投資有価証券	2	2
敷金	89	87
会員権	23	23
繰延税金資産	16	16
その他	4	4
投資その他の資産合計	135	134
固定資産合計	2,145	2,010
資産合計	3,788	3,977

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	178	203
未払金	229	252
未払費用	38	36
契約負債	134	168
未払法人税等	82	79
未払消費税等	61	48
預り金	14	20
賞与引当金	3	11
1年内返済予定の長期借入金	223	171
その他	0	0
流動負債合計	966	994
固定負債		
長期借入金	605	477
繰延税金負債	18	15
固定負債合計	623	492
負債合計	1,589	1,486
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	395	395
資本剰余金	364	317
利益剰余金	1,649	1,988
自己株式	△211	△211
株主資本合計	2,198	2,491
純資産合計	2,198	2,491
負債純資産合計	3,788	3,977

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	3,122	3,789
売上原価	1,020	1,336
売上総利益	2,102	2,452
販売費及び一般管理費	1,891	1,929
営業利益	210	522
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	0	0
助成金収入	3	0
キャッシュバック収入	1	1
受取賠償金	—	2
雑収入	0	1
営業外収益合計	6	6
営業外費用		
支払利息	5	4
為替差損	0	0
損害賠償金	—	3
雑支出	1	0
営業外費用合計	7	8
経常利益	209	520
特別利益		
受取解決金	—	130
特別利益合計	—	130
税金等調整前四半期純利益	209	650
法人税等	116	167
四半期純利益	93	482
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	93	482

## (四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	93	482
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	—	—
四半期包括利益	93	482
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	93	482
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2024年4月1日至2024年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	マーケティング 事業	DX事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,218	904	3,122	—	3,122
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3	22	26	△26	—
計	2,222	926	3,148	△26	3,122
セグメント利益又は損 失(△)	306	△88	217	△7	210

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△7百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	マーケティング 事業	DX事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,907	881	3,789	—	3,789
セグメント間の内部 売上高又は振替高	9	33	42	△42	—
計	2,917	914	3,831	△42	3,789
セグメント利益	513	8	522	0	522

(注) 1. セグメント利益の調整額0百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	158百万円	156百万円
のれんの償却額	63	63

## (収益認識関係)

(顧客との契約から生じる収益を分解した情報)

財又はサービスの種類別に分解した顧客との契約から生じる収益は以下の通りであります。

(単位：百万円)

	売上高	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
マーケティング事業	2,218	2,907
転職	992	1,583
アルバイト・派遣	494	605
不動産	729	718
その他	1	0
DX事業	904	881
マージナル	24	20
ContractS	323	380
Sales X	556	480
顧客との契約から生じる収益	3,122	3,789
その他の収益	—	—
外部顧客への売上高	3,122	3,789

(注) 当第1四半期連結会計期間より、DX事業の「Leadle」につきまして、販売主体がSales Xへ変更になったことに伴い、「Sales X」に集約しております。

なお、前第3四半期連結累計期間の顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、変更後の区分に組換えた数値で記載しております。